

- **管内** 松山管内
- **分類** 生活安全 交通安全 災害安全
- **教育課程** 教科（科） 道徳 総合的な学習の時間 特別活動 その他
- **校種** 小学校（低）小学校（中）小学校（高）中学校 高等学校
- **取組のポイント**

- 保護者、地域社会、関係機関等と連携を図った通学安全マップの作成
- 児童の登下校を地域全体で見守る体制の整備

取組の実例

ねらい

- 児童の登下校に関して、地域と一体となって見守る体制を整備し、地域ぐるみで児童の安全・安心を確保する。

内容

1 家庭や地域等と連携した「通学安全マップ」の作成・活用

- 通学路に関する要注意箇所等の情報の収集
 - ・通学安全マップを作成する時に、保護者や地域の方々に情報提供を依頼した。
 - ・学級活動や児童会活動で、登下校時の危険箇所について、話し合わせるとともに、通学時等の約束を確認した。
- 通学路における要注意箇所の情報の周知徹底
 - ・通学安全マップを保護者へ配布するとともに、地域全体で情報を共有するために学校のホームページに掲載した。
- 通学安全マップを活用した「交通安全教室」の実施
 - ・通学安全マップを全校児童に提示し、危険箇所や安全に通行するための歩行の仕方などについて確認した上で、実技指導を行った。



通学安全マップを活用した交通安全教室

2 地域全体で見守る体制及び環境整備

- P T Aによる環境整備
 - ・P T A安全パトロール(学年部長会)が巡回指導を行った。
 - ・P T Aの準組織である「おやじ会」が、校区内の特に周囲を要する箇所へ「飛び出し注意」の看板を設置した。
- 警察・町・道路管理者との情報の共有化
 - ・校区全域に関する土砂崩れ、公共施設改修工事等の交通情報をすぐに入手できるように連携を図った。
 - ・横断歩道を設置していただくよう要望した。
- 不審者に遭遇した際に対応するための指導
 - ・地元警察署の協力を得て、教職員及び児童を対象とした不審者対応の防犯教室を開催した。
 - ・安全な避難の仕方や不審者への対応方法などについて講師（警察）による実技指導を通じて、理解を深めた。



P T Aによる注意喚起を促す看板の設置

成果と課題

- 通学安全マップを活用した「交通安全教室」の実施により、児童の安全に対する意識を育み、緊急時の心構えや行動の仕方などを身に付けさせることができた。
- 定期的に危険箇所の情報を収集し、地域住民と継続して安全対策を講じていく必要がある。